

平成25年度 環境問題研究会 入会のご案内

～環境ビジネスのトレンド、先進企業の取り組み事例、法規制の動向など
企業経営に不可欠な“環境”関連の情報をタイムリーにキャッチ！！～

～ご入会のお勧め～

- ・ 環境・エネルギー問題は、社会的責任(CSR)、消費者・取引先等からの信頼性向上や、コスト削減、また新たなビジネス戦略の構築などの観点から、今や企業経営に不可欠のテーマとなっています。
- ・ 企業においては、地球温暖化問題や化学物質対策など、様々な環境課題に適切に対応する「環境経営」を推進するだけでなく、今後は国内外の環境規制強化や再生可能エネルギー普及の動きなどを商機と捉え、“環境・エネルギー産業”への進出を目指すなど、様々な視点から“環境”を企業活動に取り込んでいくことが必要です。
- ・ 「環境問題研究会」は、環境ビジネスのトレンドをはじめ、企業の先進的な環境経営への取り組み事例、国・自治体の環境施策の最新動向など、幅広い環境関連情報を専門家や企業・行政の環境部門の責任者の方々から10回シリーズで解説いただくメンバー制のプログラムで、毎年ご好評を頂いております。
- ・ メンバーの皆様には、各例会へのご参加や適宜配信するメール案内等で、企業の環境対応に役立つ様々な情報をご提供致します。
- ・ ぜひ「環境問題研究会」にご入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

～開催概要～

開催回数	10回/年(5月～翌年3月)	開催時間	14:30～16:30 (原則)
開催場所	大阪商工会議所(大阪市中央区本町橋2-8) ※地下鉄堺筋本町・谷町四丁目駅より各徒歩8分		
運営	入会申込書の登録者をご登録会員とし、例会のご案内等の連絡はその都度ご登録会員にEメールまたはFAXにてご案内いたします。 (代理出席は可能です)		
対象	企業経営者、役員並びに環境・CSR・総務・広報担当部門の方々ほか		
年会費	大商会員:65,000円 / 一般:110,000円 ※いずれも1口・税込み ※ご入会1口につき、1名の例会への参加が可能です。		
申込方法	裏面の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。 ご入会登録者には、後日「請求書」を送付させていただきます。		

環境分野の最前線で活躍する 企業や専門家を講師に迎えた 充実のプログラム

平成25年度環境問題研究会 当面のスケジュール

*テーマ・講師は変更になる場合があります

【第1回】5月22日(水)開催

「コクヨが目指す環境経営」

コクヨ株式会社 代表取締役社長執行役員 黒田 章裕 氏

<概要>

企業活動と環境との両立が企業経営において重要課題となる中、同社は環境配慮に欠ける自社商品に「バツ」をつけて3年間で全てのバツをなくすという「エコバツ」活動に取り組み、現在は同社の全商品が環境配慮型となるなど、環境対応に積極的に取り組まれています。

本例会では、黒田社長をお招きし、企業トップの視点から同社の環境戦略についてお話し頂きます。

<環境先進企業のトップが語る“環境経営・環境戦略”>

【第2回】6月19日(水)開催

「環境技術の最新動向とこれからの環境ビジネス戦略」

ジャーナリスト 武末 高裕 氏

<概要>

省エネ・CO2削減、再生可能エネルギー、廃棄物処理・リサイクル等の様々な環境課題に対して、日本が誇る技術力を生かして環境ビジネスに取り組むことは、企業活動を進める上で重要な視点となります。

本例会では、経済誌や環境専門誌などで活躍されているジャーナリストの武末氏から、環境技術・環境ビジネスの最新事例や、環境ビジネス成功のポイント等についてお話し頂きます。

<“環境技術のトレンド”・“環境ビジネス成功のためのポイント”を知る>

【第3回】7月24日(水)開催

＜京都大学防災研究所（宇治市）で開催＞

「大規模災害リスクと企業の対応」

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 准教授 牧 紀男 氏

＜概要＞

日本は地震・台風・洪水など様々な自然災害のリスクを抱えています。こうした災害発生時に社員や顧客の安全を確保し、円滑に事業を継続できるよう、各企業でもしっかりと準備をしておくことが重要です。

本例会では、京都府宇治市の「京都大学防災研究所」を訪問し、講義と「防災ミュージアム」の見学を通じて、こうした自然災害リスクに対する企業の対処法を学びます。

＜震災、台風、洪水など様々な災害リスクへの対応ポイントを学ぶ＞

【第4回】8月26日(月)開催

「ホンダにおける温暖化対策への取り組み～スコープ3への対応を中心に～」

本田技研工業株式会社 環境安全企画室 室長 篠原 道雄 氏

＜概要＞

企業の温暖化対策は、これまで事業活動や電力使用が中心となっていました。しかし近年は、サプライチェーン全体や社員の移動等も含め、より広範囲のCO2排出量を把握する「スコープ3」の概念が広まりつつあり、今後、世界的なトレンドになると予想されています。既に、大手企業を中心に「スコープ3」を見据えた対策を進めていますが、膨大なCO2排出データをいかに把握するかがポイントとなります。

本例会では、“スコープ3先進企業”である本田技研工業の篠原室長から、同社の取り組み事例を伺います。

＜先進企業に学ぶ！CO2対策の最新トレンド“スコープ3”への対処法＞

NEW

【第5回】9月26日(木)開催

「2015年のISO14001の大改正に向けて、今、事務局は何をすべきか？ ～システムのスリム化、持続可能性、楽しく有意義な会議～」

ライター 川中 三四郎 氏

＜概要＞

「ISO14001」が制定されてから10年以上が経過し、現在、多くの企業が環境マネジメントシステム(EMS)を導入しています。一方、長期にわたりEMSに取り組まれている企業においては、今後、どのように運用改善をしていくべきか、また、自社の環境への取り組みについてどのように社内の理解と協力を得るか等について悩みを抱えているとも言われています。

本例会では、環境ビジネスの専門誌でISO14001関連の記事を連載されている川中三四郎氏を講師にお招きし、2015年のISO14001改正を踏まえ、今後どのように企業が環境対応に取り組んでいくべきかについてお話し頂きます。

＜“ISO14001改正”を見据えた、これからの企業の環境活動を考える＞

○ご参考：平成24年度の開催実績

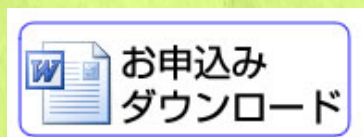
①	「キヤノン電子が進める環境経営 ～省資源・高効率を追求した企業経営を目指して」 キヤノン電子(株) 代表取締役社長 酒巻 久 氏
②	「再生可能エネルギーの固定価格買取制度と企業の対応」 一橋大学大学院商学研究科 教授 山内 弘隆 氏
③	「コマツの環境対応型モノづくり戦略」 (株)小松製作所 環境管理部 主幹 吉野 忠光 氏
④	「情報開示の新たな潮流～“CSR報告書”から“統合報告書”へ」 高崎経済大学 経済学部 教授 水口 剛 氏
⑤	「東芝グループの環境経営－エコ・リーディングカンパニーを目指して」 (株)東芝 環境推進部長 実平 喜好 氏
⑥	「地球温暖化対策をめぐる国際交渉の行方 ～COP18の論点と日本がとるべき戦略」 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 高村 ゆかり 氏”
⑦	「規制強化が進む世界のREACH規制とRoHS指令 ～企業はいま、何に取り組むべきか」 社団法人産業環境管理協会 技術参与 松浦 徹也 氏
⑧	「東洋インキの環境戦略～環境調和型製品の開発を例に」 東洋インキ(株) グラフィックソリューションセンター 西日本サポート部長 下川 英昭 氏
⑨	「“ネコロジー”を合言葉にした環境保護活動の推進」 ヤマト運輸(株) 執行役員 CSR推進部長 白井 祐一 氏
⑩	「これからの企業の環境・CSR活動 ～激動する経営環境の変化にいかに対応すべきか」 日経BP社 日経エコロジー編集 記者 馬場 未希 氏

ぜひ環境問題研究会にご入会ください

申込みフォームに移動しない場合は、
このPDFを保存して、Adobe Reader
で閲覧してください。



PDFをダウンロード



WORDをダウンロード